

# 研究推進校事業報告書

## <取組と成果のポイント>

本校では「よりよい生き方を実践する力を育む道德教育の充実」を主題に「考え、議論する道德」を軸とした授業改善と、家庭・地域と連携した道德教育の推進に取り組んだ。授業では、ファシリテーションを取り入れ、生徒同士の対話を重視するとともに、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターを継続的に実施し、安心して意見を交流できる学級づくりを進めた。また、全学年で内容項目を統一した年間指導計画や、中心発問・深化発問の蓄積、外部講師を招聘した研修を通して、職員の指導力向上を図った。さらに、保護者アンケートや地域のゲストティーチャーを活用した授業により、生徒が多様な価値観や地域社会とのつながりを実感する機会を設けた。その結果、生徒の対話的な学びや自己理解が深まり、職員の道德科に対する意識も高い水準で維持・向上するなど、一定の成果が確認できた。

## 1 研究推進校の概要

学 校 名	所 在 地	電 話 番 号	生徒数	備 考
春日井市立南城中学校	春日井市下市場町一丁目 2 番地 3	0568 (81) 4885	844人	

## 2 研究課題

### (1) 「考え、議論する道德」の実現

- ・ ファシリテーションを取り入れ、多様な他者の考えにふれる授業を行う。
- ・ 職員が内容項目や生徒の発達段階に応じた道德的価値の深まりを理解する。
- ・ 外部講師を招聘し、効果的な指導法についての研修を行う。

### (2) 地域の特色を生かした道德教育の取組

- ・ 保護者の思いや願いを取り入れた授業を行う。
- ・ 地域を支える人たちの努力や勤労観にふれる機会を設ける。

## 3 研究主題とその設定理由

### (1) 研究主題

よりよい生き方を実践する力を育む道德教育の充実  
—地域の特色を生かした道德教育の推進—

### (2) 主題設定の理由

本校は、令和6年度全国学力・学習状況調査において、国語も数学も共に県や全国の平均と比べて高い正答率を示し、基礎的・基本的な学力は着実に身に付いている。しかし、国語の「話すこと・聞くこと」に関しては県・全国平均を下回り、自分の考えを相手に伝える力や、他者の意見を受け止めて理解する力に課題がみられる。また「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」という設問への肯定的回答が低く、他者の価値観にふれて多様な考え方を楽しむ姿勢が十分に育ってい

るとは言えない。更に「自分にはよいところがあると思いますか。」という質問への肯定的回答も県・全国平均より低く、自己肯定感の低さもうかがえる。

このような実態から、本校の生徒は学習にはまじめに取り組み学力は定着しているものの、他者との関わりを通して自分を見つめ直し、多面的・多角的に考える力に課題があると考えられる。そこで、他者との対話や自己理解を深めることができる「特別の教科 道徳」を教育活動の要と位置付け、教科横断的に道徳教育の充実を図ることが必要である。

また、家庭や地域社会と連携し、家庭での教育や地域との関わりの中で育まれる道徳性を学校教育に生かすことで、より実践的で豊かな心の育成が期待できる。これらをふまえ、本校では「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の充実―地域の特色を生かした道徳教育の推進―」を研究主題として設定し、生徒が自他を尊重し、多様な価値観を受け入れながら自己肯定感を高めていく道徳教育の在り方を探究していく。

### (3) 目指す生徒像

自他を尊重し、多様な価値観を受け入れながら自己肯定感を高める生徒

## 4 研究の概要

### (1) 研究仮説

#### 仮説1【生徒に向けて】

生徒同士のコミュニケーション能力を高め、多様な他者の考えにふれたり、自分の考えを他者に伝えたりする経験を積み、道徳的価値について多面的・多角的にとらえることができるであろう。

#### 仮説2【職員に向けて】

全職員が「考え、議論する道徳」における授業の在り方や、道徳の内容項目・発達段階に応じた道徳的価値に対する理解を深めれば、生徒にとっても職員にとっても魅力的な授業を構成できるであろう。

#### 仮説3【地域に向けて】

学校教育に協力的な家庭が多いという地域の特色をふまえ、地域の方々や商工会議所との連携を深めれば、生徒が多様な価値観にふれ、社会の一員としての自覚をもち、よりよく生きることについて考えを深めることができるであろう。

### (2) 研究の手立て

#### 仮説1に対する手立て

- ア ファシリテーションを要とした主体的・対話的な授業
- イ コミュニケーション能力を高めるためのソーシャルスキルトレーニングと自己肯定感を高めるための構成的グループエンカウターの実施
- ウ クラウドを活用した振り返りの蓄積

### 仮設 2 に対する手立て

- ア 全学年で内容項目を統一する年間指導計画の工夫と内容項目ミニ研修
- イ 主発問、深化発問の蓄積
- ウ 岐阜聖徳学園大学教授 山田貞二先生を招聘した研修会の実施

### 仮設 3 に対する手立て

- ア 保護者への道徳アンケートを取り入れた授業
- イ 地域のゲストティーチャーを招いた授業(ユニット学習の実施)

## (3) 研究組織

道徳推進教師、道徳教育コーディネーター、若手職員を中心とした道徳部会を組織し、指導案やファシリテーションの検討、年間指導計画の吟味などを行った。その際、chat を活用し、時間短縮を図った。

## (4) 研究計画

月	実施内容	備考
4 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究組織づくり</li> <li>年間計画の作成</li> <li>現職教育全体会（道徳）</li> </ul>	
5 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師による師範授業、研修</li> <li>授業参観</li> <li>ソーシャルスキルトレーニング・構成的グループエンカウンター研修</li> <li>生徒アンケート（実態把握）</li> </ul>	5 / 2 山田貞二先生 5 / 9 曾山和彦先生
6 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>県教育委員会作成の意識調査①</li> </ul>	
7 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導案検討</li> <li>学習アンケート（毎学期）</li> </ul>	
8 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育パワーアップ研修参加</li> </ul>	
9 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導案検討</li> </ul>	
10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校訪問(公開授業)</li> <li>ソーシャルスキルトレーニング・構成的グループエンカウンター研修</li> <li>指導案検討</li> <li>外部講師による研修</li> <li>授業研究会</li> </ul>	10/ 2 10/ 9 曾山和彦先生 10/30 山田貞二先生
11 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニット学習(内容項目 C 勤労)</li> <li>研究推進校視察(公開授業)</li> <li>地域と連携した授業</li> <li>研究推進校視察</li> </ul>	11/ 7 保護者アンケートをもとにした授業 11/28 ゲストティーチャー(商工会議所の方々)
12 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習アンケート</li> <li>事業報告作成</li> </ul>	

1 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県教育委員会作成の意識調査②</li> <li>・ 研究のまとめ</li> <li>・ 事業報告書提出</li> </ul>	
2 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習アンケート</li> <li>・ 成果と課題の確認</li> <li>・ 次年度の計画</li> </ul>	

## 5 研究課題にかかわる取組

### (1) ファシリテーションを要とした主体的・対話的な授業

道徳におけるファシリテーションとは、生徒一人一人が主体的に考え対話し、学び合えるように、教師が学習の場を整え、進行を支援することを指す。教師は価値を教え込むのではなく、生徒の思考を引き出し、つなぎ、深める役割を担う。具体的には、安心して意見を述べられる雰囲気づくり、多様な意見を尊重する姿勢の促し、問い返しや要約による対話の活性化などが挙げられる。

今年度は、教師によるファシリテーションだけにとどまらず、生徒によるファシリテーションも実施した。生徒用のファシリテーションの型【資料1】を作成し、月に1回程度、生徒同士でのファシリテーションに取り組むこととした。当初は不慣れな様子であったが、回数を重ねるにつれて型を利用しながらの意見交流が上達してきた。【資料2】

生徒同士のファシリテーションは聞く力や説明する力、合意形成の力も高まり、「考え、議論する道徳」を支える重要な要素となる。今後は、生徒がファシリテーターとして学級の対話をリードすることで、学びの主体が教師から生徒へと移り、さらなる道徳的成長の深化が期待される。

さらに、年度末になると、教師が理科や美術など、他教科の授業においてもファシリテーションを取り入れるようになった。道徳科における実践が、他教科にも広がり、教科横断的な学習につながった。

#### ファシリテーションのパターン

##### A ペア（2人）でおこなう

- ・ 一方が話し手、もう一方がファシリテーター（聞き手）になります。時間内は役割を変えずに会話しましょう。
- ・ ファシリテーターはどんな意見も（賛成できない意見であっても）否定せずに受け止めます。そのうえで、その発言の理由をくわしく聞いていきましょう。
- ・ ファシリテーターは次の「質問の技カード」や「8つのあいづち」を参考にしながら、話し手が話しやすくなる働きかけをしましょう。

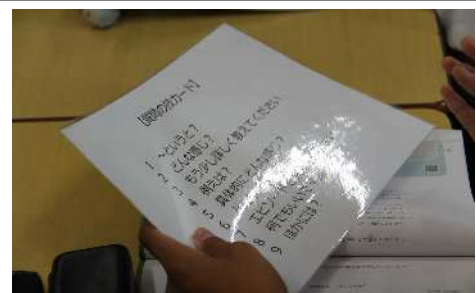
#### 「質問の技カード」

- 1 へというと？
- 2 どんな感じ？
- 3 もう少し詳しく教えてください
- 4 例えば？
- 5 具体的にどんな感じ？
- 6 どんなイメージ？
- 7 エピソードを教えてください
- 8 何でもいいますよ
- 9 ほかに？

#### 「8つのあいづち」

- 1 うんうん
- 2 なるほど、なるほど
- 3 わかる、わかる
- 4 そうなんだあ
- 5 へえへ
- 6 だよねえ
- 7 それで、それで？
- 8 そっかあ

【資料1】ファシリテーションの型



【資料2】生徒によるファシリテーション

(2) コミュニケーション能力を高めるためのソーシャルスキルトレーニングと自己肯定感を高めるための構成的グループエンカウターの実施

ソーシャルスキルトレーニング(以下 SST)と構成的グループエンカウター(以下 SGE)は、いずれも人との関わりを通して自己理解と他者理解を深める活動であり「考え、議論する道徳」と深く関係している。SST では、挨拶や感謝など、日常生活に必要な社会的スキルを体験的に学ぶことで、道徳科の内容項目 A「自分自身に関すること」や B「他の人との関わり」について実践的態度を育てることができる。一方、SGE は、自己開示や相互理解を促すグループ活動を通して、他者の立場や気持ちを理解し、共感する心を育むものであり、内容項目 C・D に示される「郷土や社会との関わり」「よりよく生きる喜び」にもつながる。



【資料3】みなタイム研修の様子

本校では、教育カウンセラーの曾山和彦氏の指導を受け、SST と SGE を組み合わせた「みなタイム」を毎週月曜日の5限前に実施している。【資料3】生徒のアンケートによると、9割以上の生徒が「うなずきができるようになった。」「学級の雰囲気よくなった。」など肯定的に回答していた。

(3) クラウドを活用した振り返りの蓄積

道徳において、クラウドを利用して振り返りを蓄積することは、生徒の内面的な成長を「見える化」し、継続的な自己理解を促す上で有効である。【資料4】授業ごとの気づきや考えの変化を記録することで、生徒は自分の思考や価値観の深まりを客観的に捉えることができる。また、教師はその蓄積を通して生徒一人一人の道徳的成長や課題を把握し、指導や評価に生かすことができる。さらに、過去の記述を振り返り、単発の授業に終わらない継続的な学びを支援できる点も大きい。生徒自身が自らの変化に気づき、自己肯定感を高める契機ともなる。

道徳振り返りシートのコピー							
ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール 拡張機能 ヘルプ							
A1:H1 100% 33							
1	A	B	C	D	E	F	G
2	日付	主題	発言回数	①よく考えることができる	②自分の意見を伝えることができた	③友達の見解で考えが広がった	④普段の生活に生かそうと思った
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							

**今日の振り返り**

- ・私は～だと考えた(思った)。
- ・今日の授業で、～だと分かった(学んだ)。
- ・私は、これから～したい。
- ・友達の見解を聞いて、～と感じた。
- ・最初は～と思っていたが、～という考えに変わった(深まった)。

【資料4】Google スプレッドシートによる振り返りの蓄積

(4) 全学年で内容項目を統一する年間指導計画の工夫と内容項目ミニ研修

昨年度までの教師間の話題で、道徳を苦手と感じている教師が多いことがわかった。道徳を苦手と感じる教員が多いのは「分かり切った当たり前のことを教えるだけ。」と受け止めてしまうことに一因がある。その背景には、発達段階に応じた内容項目の違いやねらいを十分に理解できていない現状があると考えられる。そこで、年間指導計画を工夫し、毎回、各学年の内容項目をそろえて授業を行うこととした。【資料5】



日付	内容項目	教材名			内容項目について・発達段階に応じた道徳的価値の捉え方
		1年生	2年生	3年生	
2025/04/16	B 友情・信頼	ともだち	本当の友達って	僕は友達を裏切ったのか？	<p>小学校まで 友達と仲良くして助け合うこと。友達とも理解しながら人間関係を築いていくこと。</p> <p>中学校から 友情の尊さを理解して心から信頼できている理解を深め、悩みや葛藤を経験しながら人間関係</p> <p>キーワードは「互いのプライドの尊重」</p>
2025/05/02	C 遵法精神、公德心	二通の手紙 山田貞二先生の現職教育			<p>小学校まで 守らなければ罰せられるではなく、みづから自律的な法やまりの守り方の自覚</p> <p>中学校から 立法者や社会の形成者としての視点</p> <p>★特に、中学2、3年生あたりで立法者の視点をもつ</p> <p>キーワードは「法やまりは自分たちがつくったもの」</p>
2025/05/16	A 希望と勇氣、克己と強い意志	どうせ無理をなくしたい	心を鍛える	片足のアルペンスキーヤー	<p>小学校まで 高い目標を立て、希望と勇氣をもち、目標に向かって努力すること</p> <p>中学校から より高い目標を設定し、その達成を目指すこと</p> <p>キーワードは「自分の弱さに打ち克つ」＝「克己」</p>

【資料5】全学年の内容項目を統一した年間指導計画

これにより、同一内容項目を扱いながら、発達段階に応じた道徳的価値の捉え方を比較・共有しやすくなった。また、本校では道徳を毎週金曜日の6限に全校一斉で実施しており、教師間で教材の意図や発問の工夫を共有しやすい体制を整えている。さらに、道徳部会が作成した Google スライドを用いたミニ研修を行い、発達段階に応じた内容項目の違いやねらい、教材研究をする上でのヒントを共有した。職員は Google スライドを参照しながら各自で教材研究を進めた。【資料6】

**道徳ミニ研修① 4/16(水) 内容項目 B「友情・信頼」**

学習指導要領の内容	キーワード	ポイント
小・低 友達と仲良くし、助け合うこと	仲良くしていいこと	喧嘩するよりも仲良くした方が楽しいし、一人ではできないこともできるようになる
小・中 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと	双方の信頼	相手が自分を大切にしてくれるのは、自分が相手をどれだけ大切にできているか
小・高 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を深めていくこと	磨き合い、高め合い	どうすることが、相手のためになるのか 単なる仲良しではなく、磨き合い、高め合える関係を築くことが大切である 異性についても信頼のもと互いに理解し合い、良さを認め合う
中学校 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤をも経験しながら人間関係を深めていくこと	互いのプライドの尊重	真の友情は、互いに相手を一人の人間として信頼し、尊重し合える関係において成り立つ 相手は、自分には素晴らしいものをもった存在であり、お互いが相手から学び合い高め合う ただし、傷つくことを恐れて距離をとったり感情の行き違いがあったりと、悩みや葛藤も生まれる 互いのプライドを尊重し合える、生涯にわたる友情

**道徳ミニ研修⑤ 5/30(金) 内容項目 A「自主、自律、自由と責任」**

この内容項目は、小学校と中学校で表現が異なる

小学校	善悪の判断、自律、自由と責任
中学校	自主、自律、自由と責任

中学生は善悪の判断はできて当然という前提

道徳科では「自立」ではなく「自律」  
 自立・・・外部の影響を受けない、物理的・経済的な独り立ち  
 自律・・・内面における規律や制御、自己コントロール  
 中学生の時期は「社会性」と呼ばれるなど、友達のことが気になる時期である。

## (5) 中心発問、深化発問の蓄積

授業改善のために、授業後に教師が「中心発問」と「深化発問」をフォームに入力して蓄積する取組を行っている。【資料7】

中心発問は授業の核となる問いであり、深化発問は生徒の考えを更に深めるための問いである。これらをデータとして蓄積することで、教師間で発問の工夫やねらいを共有でき、発問の質的向上につながる。また、学年間の連続性や発達段階に応じた問い方の違いも可視化でき、指導力の向上につながると考えられる。蓄積データを基に研修を行えば、教師全体の授業設計力を高め、より効果的な道徳教育の実現が期待できる。【資料8】

質問 回答 40 設定

### 中心発問・深化発問 集約フォーム【授業後に授業者が送信】

次年度に向けて、中心発問・深化発問を集約して一覧にしたいと考えています。お忙しい中恐縮ですが、授業後に中心発問・深化発問の2つを送信してください。ご協力よろしくお願いします。

このフォームでは、すべての回答者からのメールが自動的に収集されます。 [設定を変更](#)

**【資料7】発問集約フォーム**

授業者名	内容項目	教材名	中心発問	深化発問
職員A	B.友情、信頼	ともだち	ともだちの良さは。	なぜともだちなのか。
職員B	B.友情、信頼	ともだち	知り合いから友達、友達から親友になっていくために必要なことはなんだろう？	(自分が友達だと思っている、相手が友達だと思っているかわからない場面を想定して)相手が友達だと思っているかわからないときどうしたら良い？
職員C	B.友情、信頼	ともだち	お互いにとってよい友達関係を続けるために必要なことはなんだろう	これから友達とどのように接したらよいだろう
職員D	B.友情、信頼	ともだち	自分が思う「ともだちって……な人」を考えよう。	今後よい友達関係を続けるために必要なことは何だろう。
職員E	B.友情、信頼	本当の友達って	どうして悠太は正直にお祭りに行っていないことを言わないのだろう	本当のことを言えない関係は、友達といえるの？
職員F	B.友情、信頼	本当の友達って	どうして悠太は正直に、お祭りに行けないことを言わないのだろう。	正直に自分の思ったことや考えも言えないなんて、それって友達なの？

【資料8】集約された発問

## (6) 岐阜聖徳学園大学教授 山田貞二先生を招聘した研修会の実施

岐阜聖徳学園大学の山田貞二先生は、道徳教育において生徒が主体的に考え、対話する授業づくりを重視なさっている。中心発問から深化発問へとつなぐ構造や、自我関与を軸にした価値理解・他者理解・自己理解の促進が特徴である。本校では5年前から継続して山田先生の御指導を受けており、ファシリテーションを大切にしたい授業づくりに取り組んでいる。授業では、中心発問で多様な意見を拡散させ、深化発問で意見を収束させながら、生徒が自らの価値観を見つめ直す展開を意識している。また、心の数直線や心情曲線、コミュニティーボールなどの技法を通して、生徒一人一人の思考や感情を可視化し、考えに共感し合う温かな学びの場を創り出すことなどを指導していただいた。【資料9】



【資料9】山田貞二先生の研修会

## (7) 保護者への道徳アンケートを取り入れた授業

内容項目 C「勤労」の授業において、保護者への道徳アンケートを実施し、それを活用した授業を行った。具体的には、Google フォームを活用し、家庭での道徳的価値観や生徒への願いなど、道徳に関する意識を保護者に尋ねた。【資料10】その結果を集計し、授業の導入場面では多様な大人の考えとして紹介し、生徒の関心を高めた。また、終末の場面では、保護者の意見と自分の考えを比較しながら、自らの価値観を見つめ直す機会とした。【資料11】

道徳科授業に関する保護者アンケート（勤労の意義について）

B I U 絵 文

本校では、道徳科の学習の一環として、11月7日(金)に「勤労の尊さと働くことの意義」について考える授業を行います。

生徒が働くことの意義ややりがいを、自分の将来と結びつけて考えられるよう、保護者の皆さまのお考えを授業の導入や終末で紹介させていただきたいと思っております。

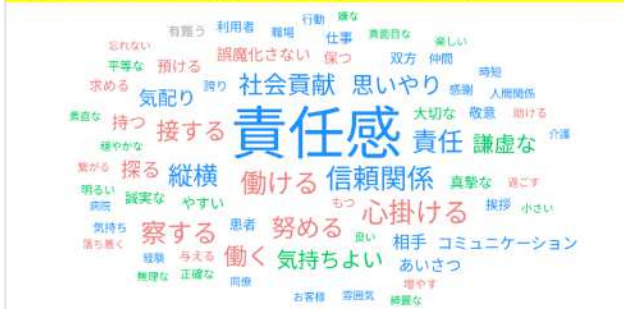
ご回答は匿名で扱い、授業以外の目的では使用いたしません。答えにくい疑問については、無回答でも構いません。具体的なエピソード等があれば、大変助かります。ご協力をよろしくお願いいたします。10月31日(金)締め切りとさせていただきます。

【資料10】保護者アンケート

授業後の生徒の振り返りからは、生徒だけでは気付きにくい社会的な視点や保護者の勤労観にふれることで、考えを広げ、家庭・地域とのつながりを実感したことが読み取れた。【資料12】授業を通して、生徒の道徳的価値の理解を深め、保護者にも学校の道徳教育への関心を高めてもらうことにつながったと考えられる。



# 保護者アンケート「働く上で重視していること」



# 保護者アンケートより「勤労についての考え方の変化」

中学生のころは、勤労というと働いてお金をもらうことぐらいにしか考えていなかった。大人になって、仕事に対する責任と誇りを持って働くことは、やり甲斐、生き甲斐にもつながるんだということを、経験を持って知った。学生時代のアルバイトでも、社会を知る第一歩となり大変良い経験だった。

働くことってしんどいこと、嫌なことではなく、感謝されることもとても多くて、自分も成長でき、経験を積める素敵なことです。誰かのために、誰かの役に立てるお仕事はとても楽しいです。

仕事の種類は膨大にあること。中学生の自分の目に見えている職業はほんのわずかだった。

## 【資料 11】生徒に紹介した保護者アンケートの結果

- 保護者アンケートを見て、驚いた。普段、仕事について親と話し合うことはないけれど、親がこんなふうに考えているとは知らなかった。「責任感」「ありがとう」などの言葉が多く、どんな仕事でも責任感や感謝の気持ちが大事なのだと気付いた。自分の親がアンケートに答えたかは知らないけれど、家に帰ったら「仕事」について親と話してみたいと思った。
- 働くことで一番大事だと思っていたのはお金だったけど、保護者のアンケートではお金以外のことも大事にしていることがわかった。やりがいを大事にしている人が多かった。保護者のアンケートも、いろいろな意見があって、考え方がたくさんあるのだと思った。私は将来の夢は決まっていなかったけれど「いろいろな仕事のことを知ってほしい」という意見が気になった。今のうちから、たくさんの仕事について調べて、将来に役立てたいと思った。

## 【資料 12】授業後の生徒の振り返り

### (8) 地域のゲストティーチャーを招いた授業(ユニット学習)

11 月はユニット学習として、道徳の内容項目 C「勤労」をテーマとし、生徒の実態に合った複数の教材を選定して授業を構成した。【資料 13】

日付	内容項目	教材名		
		1 年生	2 年生	3 年生
2025/11/07	C 勤労 職業講話会に向けて、同じ内容項目で小単元を構成する 【ユニット学習】	幸せな仕事って	初めてのアルバイト	専門家であること
2025/11/21		私は清掃のプロになる ※日本文芸出版	おばちゃんのくれた「おまじない」 ※日本文芸出版	なし
2025/11/28		段ボールベッドへの思い ※光村図書 ※ファシリテーションの授業	清掃はやさしさ ※ファシリテーションの授業	段ボールベッドへの思い ※光村図書 ※ファシリテーションの授業

## 【資料 13】ユニット学習(年間指導計画より)

11 月 28 日(金)には、地域の商工会議所の方々を道徳の授業にお招きした。5 限に「清掃はやさしさ」の授業を実施し、地域の商工会議所の方々に参観していただいた。6 限は職業講話会を兼ねて、商工会議所の方々にゲストティーチャーとして勤労について御講演いただいた。働くことの意義や尊さ、地域社会を支える仕事の価値についてお話しいただき、生徒にとって地域の一員であるという自覚を高める機会となった。また、5 限の道徳を参観して感じたこと、気になったことなどもお話しいただき、学校や生徒と地域の方々が、共に道徳について考えることができた。【資料 14】





【資料 14】ゲストティーチャーによる授業

11 月のユニット学習を終えた後の生徒の振り返りからは、多様な職業観や価値観にふれ、勤労の尊さを実感的に理解するとともに、地域社会の一員としての自覚を高めることができたことが読み取れた。【資料 15】

- 「勤労」の 3 つの授業を終えて、私は仕事は辛いことも大変なこともあるけど、どの仕事でも「やりがい」や「人のため」「せっかくなら」の気持ちで行うことが大切だと思った。まだ働くまでは時間があるけど、自分が働くなら今回の授業の中で学んだ大切なことを思い出し、頑張りたいと思った。
- 3 つの教材を通して「勤労」は責任感を培ったり、人間関係を築いたりすること、社会への貢献など、自分のためだけでなく、誰かに対しても役に立ち、誰かが喜んでいて自分に勤労のやりがいがあると感じた。実際に働いている大人の方々の意見はとても参考になった。

【資料 15】勤労のユニット学習を終えた時の生徒の振り返り

## 6 研究の評価

### (1) 研究の成果

6 月と 1 月に生徒及び職員に道德に関するアンケートを実施した。その結果に基づいて成果を考察する。

#### ア 研究仮説 1 【生徒に向けて】に関する成果

研究仮説 1 では、生徒同士の対話を通して、多様な他者の考えにふれることで道德的価値について多面的・多角的にとらえることができると仮定した。6 月と翌年 1 月の生徒アンケートを比較すると、この仮説は概ね検証されたといえる。「道德科では他の人の考えを聞きながら、自分のことについてよく考えている。」という項目において「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」という肯定的回答は、6 月の約 92.9%から 1 月には約 93.5%へと微増した。また「道德科では自分の意見を友達に伝えている。」は 6 月と 1 月ともに約 93%となっており、高水準を維持している。これらの結果から、ファシリテーションを取り入れた授業や、生徒同士の意見交流によって、道德的価値について多面的・多角的にとらえられてきたことがうかがえる。

#### イ 研究仮説 2 【職員に向けて】に関する成果

研究仮説 2 では、全職員が「考え、議論する道德」の授業づくりや、内容項目・発達段階への理解を深めることで、魅力的な授業を構成できると仮定した。職員アンケートの結果から、この点について成果が確認された。

「児童生徒にとって道德科が自己や人間を見つめる時間になっている。」という項

目の肯定的回答は、6月の約95.2%から1月には約95.7%へと微増した。また「多面的・多角的な考え方ができるような話し合いを行っている」においても、肯定的回答が約95.2%から約95.6%へと微増している。数年間にわたる外部講師による研修や、内容項目ミニ研修の積み重ねが、教職員の意識を高水準で維持する結果につながったと考える。

#### ウ 研究仮説3【地域に向けて】に関する成果

研究仮説3では、家庭・地域との連携を深めることで、生徒が社会の一員としての自覚を高めることができると仮定した。生徒アンケートの「自分の住んでいるところにはよいところがある。」という項目では、肯定的回答が6月の約87.4%から1月には約94.2%へと上昇した。保護者アンケートを活用した授業や、ゲストティーチャーを招いた学習を通して、地域を身近にとらえる視点が育まれたと考えられる。

### (2) 研究の課題

#### ア 研究仮説1に関する課題

生徒の対話的な学びが進展した一方で「道徳科は好きだ」という項目の肯定的回答は、6月の約80.4%から1月には約79.6%へとやや低下している。対話活動に不安を感じる生徒や、発言に消極的な生徒への支援が十分とは言えず、発言方法の多様化や書く活動との組合せなど、参加の在り方を工夫する必要がある。

#### イ 研究仮説2に関する課題

職員の意識は向上したものの、本実践において重点を置いていない道徳科における評価の在り方については課題が残る。また、振り返りの蓄積は進んでいるが、それをどのように評価に結び付けるかについては、職員間で共通理解が十分とは言えない。今後は具体的な評価事例を共有する研修を通して、評価の妥当性を高めていく必要がある。

#### ウ 研究仮説3に関する課題

地域理解は深まったものの生徒アンケートにおける「地域の行事に進んで参加している。」という項目の肯定的回答は、1月時点でも約43.5%にとどまっている。また、授業内での理解を、実際の行動につなげるためには、道徳の授業と学校行事や地域活動をより意図的に関連付け、実践の場を設定することが課題である。

さらに、研究主題である「地域の特色を生かした道徳教育の推進」について、11月の保護者アンケートを用いた道徳と、地域のゲストティーチャーを招いた授業だけにとどまってしまった。他校の研究で見られるような「全校一斉での道徳の授業参観」や「保護者向け道徳授業」「道徳通信の配付」なども検討していきたい。

### 7 終わりに

本研究では「考え、議論する道徳」を軸に、授業改善、職員研修、家庭・地域との連携を進めてきた。その結果、生徒の対話的な学びや自己理解の深まり、職員の指導意識の向上など、一定の成果を確認できた。一方で、評価の在り方や、地域連携のさらなる充実については課題も明らかとなった。次年度は、得られた成果と課題を踏まえ、より系統的・継続的な道徳教育の充実を図っていきたい。最後に、本研究に御指導・御助言をいただいた講師の先生方、御協力いただいた保護者・地域の皆様に心より感謝申し上げる。